

さえき病院 通り八通信

★梅雨の時期になりました。市内ではとうかさんがあり浴衣を着始める頃です。湿度の高い日が続きます。引き続き体調管理に気をつけましょう。

6月で開所14年目を迎えました。これからもよろしくお願いたします。

生協さえき病院 職員一同

岡田先生のコラムです。

二通りの死に方とエンディング・ノートについて

今から約15年前、当時の呉市市長が会長をされていた「時局問題研究会」に出席したことがあります。政治や経済や国際情勢の話が聞けるかと思いましたが、題名が「これからの生き甲斐」で、関西で活動されていた木津川計先生が、わずか15名の参加者に1時間ほど講演をしてくださいました。これまでたくさんの講演や講義を拝聴しましたが、この先生ほどお話の上手な人に出会ったことはありません。先生は私と同じ歳ですが、文芸評論家で「上方芸能」という落語家対象の雑誌の編集長を長年務めた先生です。亡くなられた永六輔さんが「大往生」という本を書かれましたが、「大往生」の条件を書いていないので、自分が作ったというお話から始まりました。

「大往生」の条件：1) 安らかな死 2) 男85歳以上、女90歳以上 3) 悼まれる死 4) 寝たきり1年以内 5) 身近な人に看取られる 次に、「ポックリ死」というのがあり、老人大学でお年寄りに聞くと、たくさんの人がそれがいと手を上げるそうです。

「ポックリ死」の条件：1) 健康 2) 経済的なゆとり 3) 時間的なゆとり 4) 人間的社会的つながり 5) 家族の支え 6) 張りのある日常 ①趣味 ②学習 経済的なゆとりというのは、大金を貯めるといったことではなく、たとえば孫のお年玉をあげるのに、家中探しまわらなくてもすむ程度ということです。私たちは「大往生」の寝たきり1年以内というのは、自分ではどうすることもできないことが起こりうるので難しいことだと思いますが、「ポックリ死」の方は、張りのある日常生活を送れるように、なんらかの趣味をもち生涯学習を続けたり、通所リハビリでお互いにお話したり楽しいひとときを過ごしたりすることはできると思います。現在、2025年問題という言葉をよく聞くようになりました。団塊の世代が高齢者となり、3人に1人が65歳以上になる時期が近づいているということです。若いときには元気によく働いて、歳をとったら若い人たちに囲まれて、最期は安らかに死を迎えたいというのは、万国共通の人々の願いでしょう。全国国民健康保険診療施設協議会というのがあり、北海道から沖縄まで815施設が入っています。広島県にも26カ所ありますが、すべて都会ではなく田舎の方にあります。北広島町の在宅医療を熱心に展開している医師が「いきいきと生きてゆくために一自分の最期を考えること」という、エンディング・ノートを作りました。高齢者が読めるように大きな字で書かれていて、36頁、1部140円です。本屋さんでは150頁、1500円もするでしょう。一度、見本を見てみたい人には見せてあげますので、お知らせください。